

(別記)

2020年度富士市農業再生協議会水田フル活用ビジョン

1 地域の作物作付の現状、地域が抱える課題

農業者全体で、兼業農家の割合が高く、各農家ごとの耕作面積が小さい。兼業農家の世帯では、農業に取り組む後継者が少なく、今後、農地を保持するためにも、担い手への農地の集積が必要である。

2 作物ごとの取組方針等

(1) 主食用米

市街化区域の水田を中心に、従前から転作に取り組んでおり、市街化、市街化調整区域を合わせた全体では需要に応じた生産がされている。

その生産については、小規模農家が多いため、自家消費米を中心に、生産量の減少がみられる。今後は他作物の生産の維持・拡大を図る。

(2) 非主食用米

ア 飼料用米

主食用米の需要減が見込まれる中、飼料用米を転作作物に位置づける。また、国からの産地交付金を活用した多収品種の導入を推進するとともに、市内外の畜産農業者との連携により、地域ぐるみの需給マッチング体制を構築し、飼料用米に新規で取組む生産者を増やす。

イ 加工用米

日本酒用の加工用米は生産量が減少しているため、食品業界からの需要が増大している。

主食用米と同じ機械、施設で取り組めることから、JAを中心に実需者との複数年契約を推進しながら、需要に応じた生産に取り組む。

(3) 高収益作物（園芸作物等）

水田を活用して露地野菜を生産し、地域の直売所で販売するなど地産地消の取り組みがなされている。今後も、軟弱野菜の生産により不作付け地の積極的な解消を図っていく。

また施設で栽培されるイチゴ、トマト、キュウリ、花きを地域特産物として設定し、高収益作物の生産維持拡大を図る。

(4) 畑地化の推進

けい畔や用水設備がないなど、将来にわたって水田として利用する見込みが無い農地については、畑地化を推進する。

3 作物ごとの作付予定面積

| 作物 | 前年度の作付面積 (ha) | 当年度の作付予定面積 (ha) | 2020年度の作付目標面積 (ha) |
|-----------|------------------|--------------------|-----------------------|
| 主食用米 | 565 | 565 | 568 |
| 飼料用米 | | | |
| 米粉用米 | | | |
| 新市場開拓用米 | | | |
| WCS用稲 | | | |
| 加工用米 | 0.59 | 0.59 | 0.6 |
| 備蓄米 | | | |
| 麦 | | | |
| 大豆 | | | |
| 飼料作物 | | | |
| そば | | | |
| なたね | | | |
| その他地域振興作物 | 10.12 | 10.12 | 11.1 |
| ・野菜 | 8.23 | 8.23 | 9.3 |
| ・花き | 1.89 | 1.89 | 1.8 |

4 課題解決に向けた取組及び目標

| 整理 番号 | 対象作物 | 使途名 | 目標 | 現状値 (令和元年度) | 目標値 (令和3年度) |
|----------|---------------------|-------------------|--------------|----------------|----------------|
| 1 | 高収益作物、 加工用米（基幹作） | 高収益作物等の 拡大への取組 | 作付面積 (ha) | 10.7 | 11.1 |

※ 必要に応じて、面積に加え、取組によって得られるコスト低減効果等についても目標設定してください。

※ 目標期間は3年以内としてください。

5 産地交付金の活用方法の明細

別紙のとおり